

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和3年4月 10日現在

研究課題名	中東欧諸国における『ポスト社会主義の終焉』についての検討： 研究史上の認識と現地の認識の差を手がかりとして	
申請者	氏名	所属機関・職
	神原ゆうこ	北九州市立大学

研究成果の概要

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言発令により、勤務先より出張時期の検討が求められたため、資料収集にもとづく研究活動の開始が遅れることになった。しかしながら、11月4-7日と3月15-18日と2回の資料収集を行うことができ、表記の課題について研究を進めることができた。

研究センター滞在中は、中東欧地域の政治学・社会学・文化人類学分野の論集等を横断的に閲覧したほか、データベースや電子ジャーナルを活用して、近年の欧文雑誌の研究成果を集中的に収集した。報告者が以前に実施したインタビューでも、EU加盟を果たした中東欧諸国では、近年、社会主義に言及した語りは減少してきている。実際、2000年以降は、Post-socialism という概念を使用することについて、否定的な見解を示す論文も散見されるようになった。しかし、Post-socialism（または post-communism）という言葉タイトルやキーワードにいた論文は、近年も変わらず発表されている。単なる地理概念かのように使用されている場合もあるが、ポピュリズムの台頭や権威主義体制の復活など非西欧的な価値の台頭と関連付けられて強調されているように見える場合もある。ポスト社会主義の用法については、収集した資料をさらに読み込み、成果としてまとめることを目指す。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

なし。上記の理由で研究開始が遅れたため、準備段階にある。当該テーマに関するレビュー論文か研究ノート執筆を予定している。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

なし。現在報告者が代表を務めている科研の終了後に本研究の成果を生かしたプロジェクトを考えたい。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。